

近森リハビリテーション病院 画像診断部

診療放射線技師 久保 行広

要略

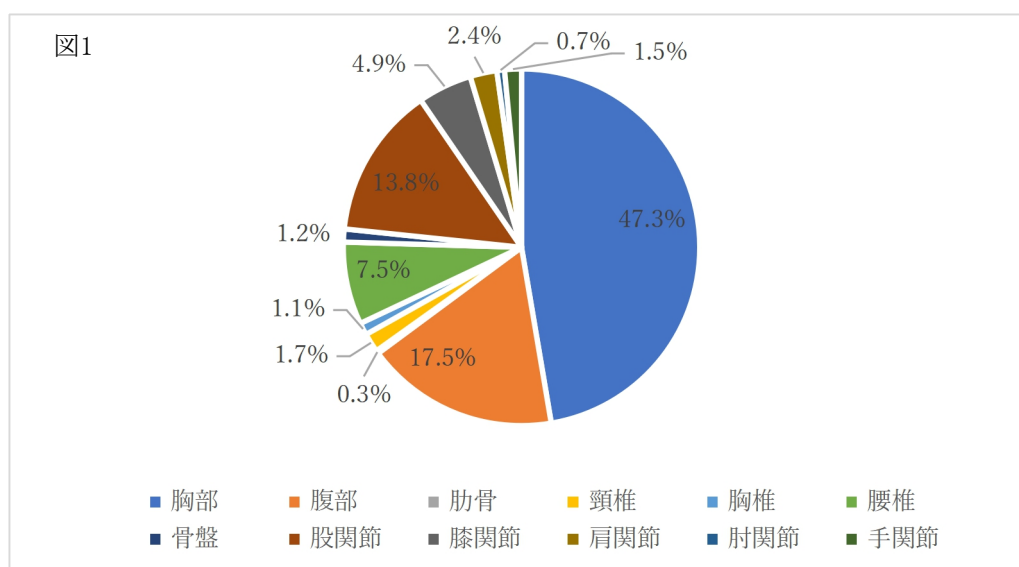
新型コロナウイルス感染症の5類移行により社会全体は緩和の方向に向かっても医療機関は感染対策を継続せざるを得ません。引き続き撮影機器や撮影室の感染対策に苦慮しているのが現状である。放射線機器は、16列CT装置は特に問題なく稼働している。X線TV装置(一般撮影装置)は、モニター信号の接続部が経年劣化によってモニターにノイズとして現れ始めているが診断には問題なく、部品交換するには至っていない。検査件数は全体的に減少した。

検査件数

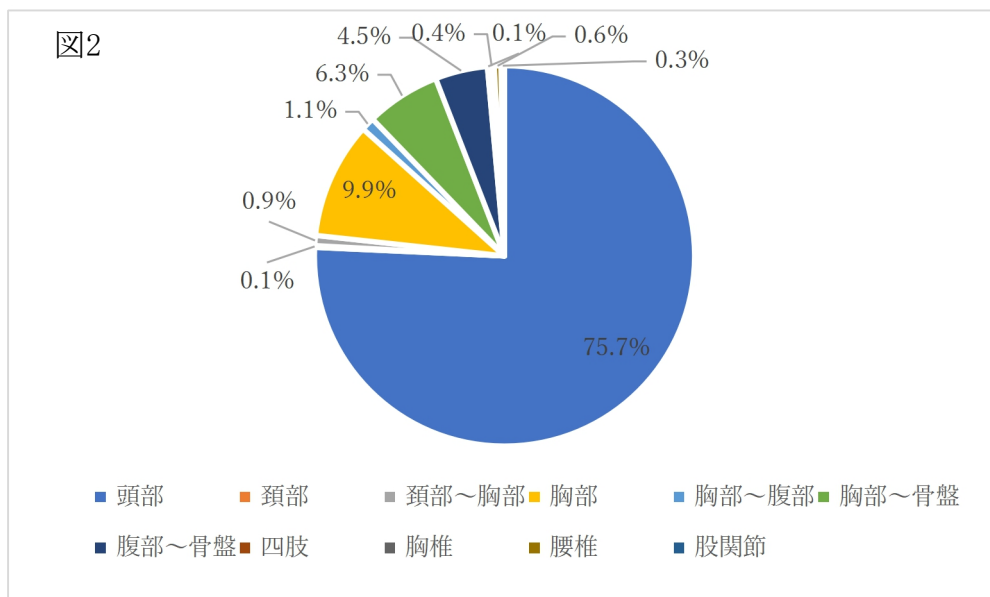
2023年の各検査件数における前年比は、一般撮影が-12.4%、単純CTが-12.5%、嚥下造影(VF)が-23.7%であった。表1に2019年から5年間の検査件数と図1に2023年一般撮影の撮影部位の割合、図2に2023年単純CTの撮影部位の割合を示す。

表1：検査件数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	前年比
一般撮影	1575	1415	1528	1555	1362	-12.40%
単純CT	878	739	787	803	702	-12.50%
嚥下造影(VF)	538	473	544	389	297	-23.70%



・件数は前年より-12.4%減、胸腹部が約10.9%減少し代わりに骨撮影が増加した。



・件数は前年より-12.5%減、頭部 CT が約 4.3%減少し代わりに体幹 CT が増加した。

放射線医療機器関連

16 列 CT 装置は、画像の荒れ具合により X 線管球の劣化の目安になる信号雑音比 (SN 比) をユーザ一定期点検で毎月測定しているが著明な定格低下は見当たらない。

X 線 TV 装置 (一般撮影装置) では、部品交換を必要とする故障は起きてはいない。

モニター接続部の経年劣化による縞模様などのノイズは昨年から消えていないので、部品交換が必要となる。X 線線量測定では線量の低下もみられているが、メーカーによる定期点検で X 線管電圧や電流などに問題は生じていない。日常点検と定期点検による保守点検を怠りなく実施し、装置の状態を確認しながら使用を継続すれば問題ないと思われる。

認定更新

医療ガスの点検業務を行うため特定高圧ガス取り扱い主任者講習を受講し免許を取得した

診療用放射線の安全利用のための研修

放射線作業従事者である医師 7 名、言語聴覚士 21 名、診療放射線技師 1 名に加えて、看護師の研修も 2024 年 1 月 31 日には終了予定である。

来年の目標

近森リハビリテーション病院では、今年度より整形領域の患者さんの受け入れが増加し一般撮影も整形の撮影が増加した。慣れない骨領域撮影の体位変換や撮影台への移乗を工夫し安全に患者さんの撮影を行っていききたい。なお、引き続き診療放射線技師が専門分野である医療放射線安全責任者と職種を問わない医療ガスの点検業務をおこなう事で病院運営に貢献し医療ガス点検と医療被ばく管理を行っていこうと思っている